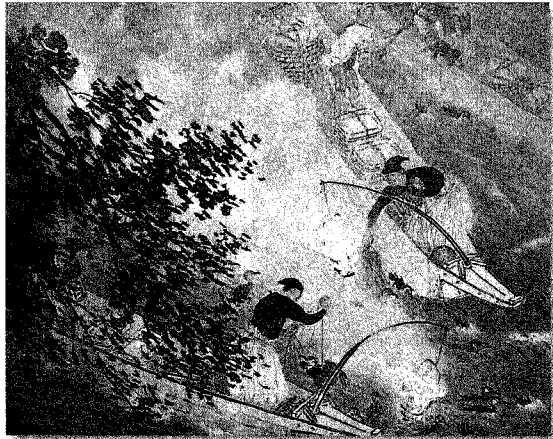


都留市博物館「ミュージアム都留」秋の展覧会のお知らせ

## 秋季特別展『川合玉堂展』開催中！



鴉飼 紙本着色

**会期 11月28日(日)まで**

開館時間 午前9時～午後4時30分(入館は4時まで)

入館料金 一般 600円(420円)

高校・大学生 400円(280円)

小・中学生 200円(140円)

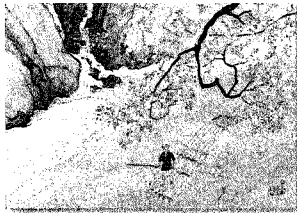
( )内は、20名以上の団体料金

川合玉堂(本名 芳三郎)は、愛知県に生まれ、岐阜で少年時代を過ごしました。14歳のときに京都の望月玉泉の門に入り「玉舟」と号し、17歳のころより「玉堂」(玉泉の玉と外祖父竹堂の堂をとり)と改めています。以来70年にも及ぶ長い画業に入ったのです。22歳の時、内国勸業博覧会において《長良川鴉飼》で入賞を果たしましたが、橋本雅邦の《龍虎の図》に深く感動し、上京後その門に入りました。その後、文展の第1回から第12回までの審査員を務め、44歳で皇室技芸員を拝命し、51歳のときには下村観山、横山大観、竹内栖鳳などとともに淡交会を結成しています。

玉堂の画風には、一貫して人間の存在する風景あるいは存在としての自然があります。雅邦に学び、四条派、狩野派などを消化しながら玉堂独自の日本的湿潤さを感じさせる画境に到達しています。

今回の展示内容は、軸装14幅、額装3点、卷子1点、写生帳10冊の構成になっています。特に晩年の名作《鴉飼》は、ニューヨークで開かれた世界美術展の出品作であります。岐阜で育った玉堂の鴉飼の図はライフワークと言えるがごとく描き続けましたが、その最後を飾る珠玉の作品です。

今回の特別展は、青梅市御岳にあります『玉堂美術館』の協力により開催しています。



春流  
紙本着色



春野  
紙本着色



竹生島  
紙本彩色



溪畔晩涼  
絹本水墨



御濠の朝  
絹本着色

### 次回企画展のお知らせ

「思い出の20世紀展」12月8日(水)から開催します。

2000年の1月1日は、まだまだ20世紀です。この1年で世紀が変わるのです。その瞬間に立ち会える今だからこそ残せること、語れること、今でないと残せないこと、どのようなことでも何か聞かせてください。

思い出の写真、なつかしい歌声のレコード、それを動かす蓄音機などお持ちではないですか？当館学芸員と一緒に企画の打ち合わせをしていただける方を募集しています。ぜひご連絡お待ちしております。

問合先

都留市博物館ミュージアム都留

☎(45)8008・☎(45)8608